

# 京都・平安京跡右京八条二坊二町

1 所在地 京都市下京区西七条石井町

2 調査期間 一九九三年(平5) 二月～一九九四年四月

3 発掘機関 (財)京都市埋蔵文化財研究所

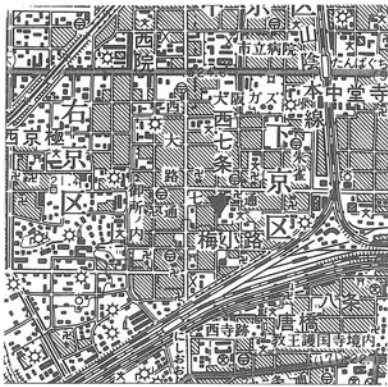
4 調査担当者 辻 裕司・近藤知子

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 古墳時代～室町時代

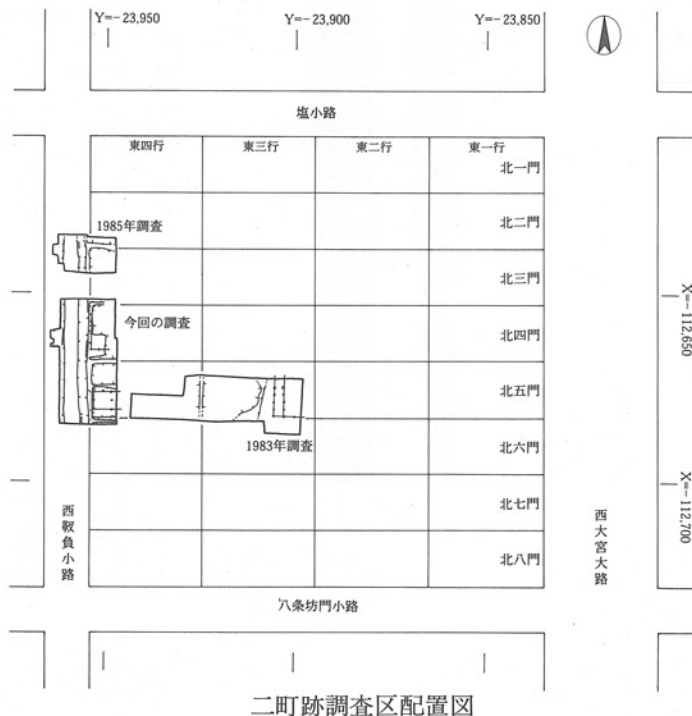
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

この遺跡は、京都市立七条小学校敷地内にある。調査地点は右京八条二坊二町のほぼ中央西端に該当する。この地は平安京の官設市の一つである西市の外縁に展開する市外町に南接する位置にあたる。同小学校敷地内では今回の調査対象地区の東と北に接する地域で、これまでに一九八三年に実施した第一次調査(本誌第六号)と一九八五年に実施した第二次調査(同第八号)

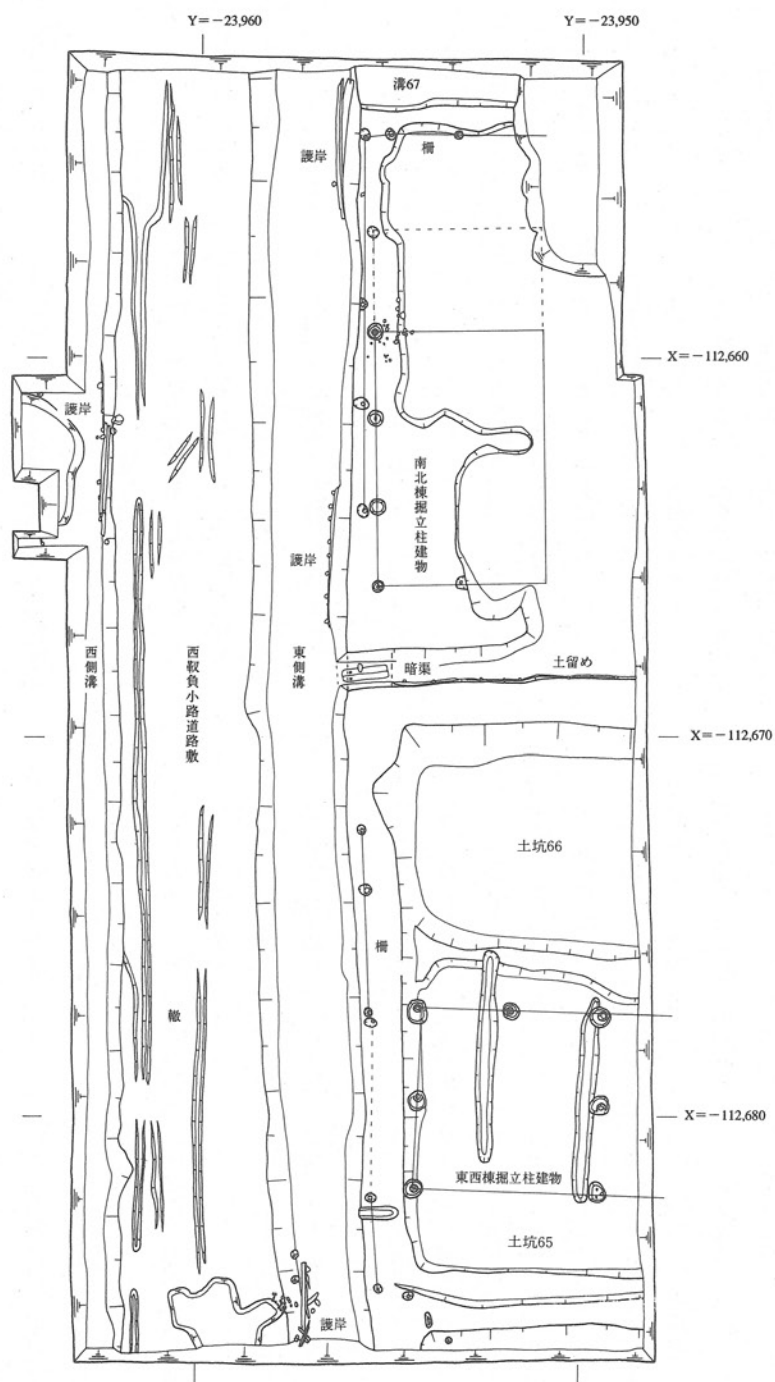


(京都西南部)

の第二次調査(同第八号)を実施した。この地は平安京の官設市の一つである西市の外縁に展開する市外町に南接する位置にあたる。同小学校敷地内では今回の調査対象地区の東と北に接する地域で、これまでに一九八三年に実施した第一次調査(本誌第六号)と一九八五年に実施した第二次調査(同第八号)



の発掘調査例があり、各々豊富な木製品とともに多数の木簡が出土している。検出した遺構には、条坊遺構や二町内の宅地割りを示す遺構などがあり、それぞれ連続し密接に関わる。今回の第三次調査も同様の施設改築に伴う事前の調査である。当該地の地形は東が高く南西に向かって緩傾斜を呈する。第一次



第3次調査出土遺構図

調査で検出した池状遺構の肩口から西は低位に属し、湿地状を呈する。この湿地から古墳時代前期に属する土器が出土した。湿地上面には腐植土層が堆積し、平安京造営時の当該地点における基盤層となる。

この基盤層上面に厚さ約〇・六mの積土を施し造成するが、造成箇所は主として二町の西面築地（西靱負小路東築地）想定位置や四行八門制に従った各門界想定位置を対象としており、宅地内は窪む。築地や門界を示す積土上半部は同一の土層を用いた整地がなされており、当該地の造成開発が戸主単位の個別的な契機によるものでないことを示している。各門界を示す積土によって区画された空間は、東四行西半の北三門・北六門の一部と北四・北五門であり、北四・五門の各南北幅は約一五m（五丈）ある。

西靱負小路に該当する箇所は、平安時代初頭にはほぼ小路幅分の南北流路が敷設されており、運河として利用された可能性が高い。この流路からは多量の木製品とともに木簡も多数出土している。

平安時代前期前半には流路は埋没し、上面に西靱負小路が敷設される。小路は道路敷と東・西側溝を検出した。道路敷は砂・小礫で造作され、乾燥時にはきわめて堅固である。検出幅は約四mある。東・西側溝は幅が二―三mある。側溝内の、門界および北四門に面する四力所には護岸施設があり、橋に伴う施設と考えている。

北四門の北・西辺には柵がめぐる。南西部に積土を施し、その上

面に南北棟掘立柱建物が一棟建つ。建物は小路に面し、建物南西部には橋に想定した護岸を伴い、その箇所では柵は途切れる。北辺外側には東西方向の溝が延び、南辺の内側西端には暗渠排水施設がある。従って、この宅地は一戸主内に収まると考えている。暗渠底面西端には齋串一四枚・和同開珎一枚を置き、細かい砂礫で覆って蓋板を被せ埋め戻す。埋納された齋串には北四門内への水・病い・穢れの侵入を防ぐ目的が想定できる。

北五門内には北四・五門界から南へ約七mの地点に高まりがある。この高まりを境に南には土器・木製品（Ⅱ）「延暦廿四年」木簡を含むなどが多量に投棄され、平安時代前期前半にはあまり活発な利用状況はない。後半になると、先の高まりに規制を受けるような状態で南半に積土を施し、東西棟掘立柱建物を一棟建てる。

以上のように、西市外町に南接する地域が、平安京の造営に間を置かず開発されたことを明らかにすることができた。西市設営が周辺の条坊路ならびに路に面する宅地の開発にも強い影響を及ぼしたことが窺える。市外町外郭地域の重要性が指摘でき、市周辺に展開したとされる諸国の調邸や諸官司などの物資収納施設の存在や、市外町の開発時期にも関わる極めて重要な情報を含んでいると言える。西靱負小路は物資の流通についての重要性は言うまでもなく、西市の中央を南北に貫く主要条坊路である。造営当初の運河的な利用は西堀川小路と共に平安京への水運による物資搬入を示す遺構と捉



(6) □□一□□申□

(174)×(14)×4 081

(15) □□生□

091

(7) 六十六 六□

(164)×(15)×4 081

(16) □日□

091

(8) 二□十二 □□

(123)×(10)×5 081

南北流路

(9) 六卅□□六廿廿

□□

(94)×21×4 081

(17) 買進上米壹斛伍斗直錢壹貫肆佰伍拾文

・ 濱私買附上鷄一隻直錢京上報□七月

(205)×16×5 019

(10) □□□□□□

(107)×(16)×2 091

土坑六五

(11) 納物式種 紙廿三帖 庸布一端 裏料

・ 延曆廿四年五月十九日 記秋穗

133×22×3 011

(12) 〓大□

(135)×20×4 033

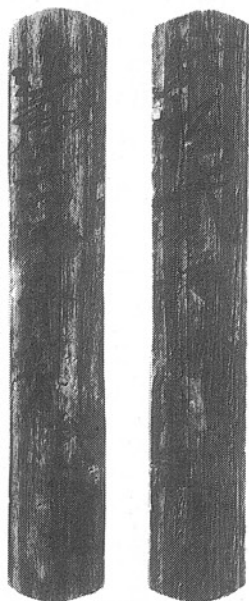
土坑六六

(13) □大車 小車小□小□

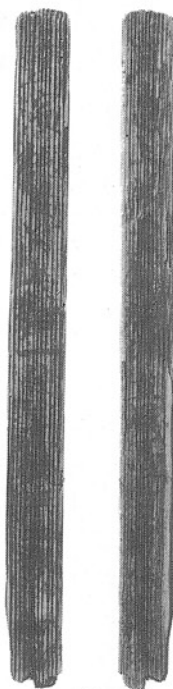
(136)×(11)×1 081

(14) □□ 淳力

091



(11)



(17)

- (18) >猪山上< (50)×17×3 031 \*
- (19) >阿知魚腊 (153)×19×5 033
- (20) >朝堅魚 (99)×13×2 039
- (21) >>五斗 (116)×19×5 039
- (22) [蘇カ] 225×32×4 051
- (23) [敦賀皆万呂白五十] 129×20×4 051 \*
- (24) [斗カ] 147×28×6 051
- (25) [ ] (73)×(8)×4 051
- (26) [郡] (108)×(10)×2 059
- (27) [間上間平間中] 92×19×5 051
- (28) >大大大大大大大大大大> (385)×29×15 031
- (29) > 大大 大大大大> (130)×19×16 065
- (30) [合錢×] (109)×(29)×2 081
- (31) 正月二日白米四 [解カ] [御カ] (148)×(10)×5 081
- (32) 五斗 (40)×21×2 081
- (33) [戌カ] (76)×(17)×2 081
- (34) [ ] (142)×(15)×2 081



(27)

